

## 環境影響評価審査書に対する事業者の主な対応

013	横須賀都市計画道路1・6・1号本町山中線	
項目	審査書の指摘事項	事業者の対応
総括事項	<p>横須賀市及びその周辺地域は、環境条件の変化に富んだ地域であるため計画道路を選定する際に環境影響を中心として、比較検討した経緯を明らかにするとともに、最も影響の少ない方法を選定する必要がある。</p>	<p>計画路線の選定については、道路設計面、植生、動物の分布状況、景観等の観点から3ルートについて比較検討を行い、問題が最も少ないルートを選定した。</p>
大気汚染	<p>計画道路の地形に応じた代表地点における気象観測を実施し、拡散予測結果の検討を行うこと。</p> <p>自動車排出ガスの拡散予測に当たっては、県の窒素酸化物総量規制における自動車排ガス予測手法も取り入れながら、適切な予測結果が得られるよう配慮すること。</p> <p>評価に当たっては、県の二酸化窒素にかかる環境目標値との関係からの評価も行い、本道路計画だけでなく、総合的な対応を検討すること。</p>	<p>計画道路の地形に応じた地点で観測を行い、予測したところ、年間を平均すると、大気汚染濃度は評価書案の値より低めになると予想され、予測結果は妥当なものと考えられる。代表地点で拡散予測を行ったところ、バックグラウンド濃度を加えない二酸化窒素の濃度は、路肩から80mの地点では、評価書案の予測値と約1割程度の増減を示していることから、問題はないものと思われる。</p> <p>二酸化窒素については、全地点で環境基準を満足しているが、県の環境目標値を一部の地点で越えているため、今後関係機関の協力を得ながら達成を図りたい。</p>
騒音	<p>交通騒音対策としては、地形及び宅地との位置関係を考慮に入れた道路構造、また必要に応じトンネルの吸音処理、遮音壁の設置、緑地帯の設置などを検討する。高架構造の設計ではジョイント部などの構造や橋梁のたわみなどに留意し、低周波空気振動を発生させないよう配慮すること。</p>	<p>道路交通騒音では必要に応じてトンネルの吸音盤の設置、緑地帯の設置等により防音効果が高められる道路の構造を検討する。また、低周波空気振動については、構造設計においてジョイント部の平坦性を確保するように努めるが、更に低周波空気振動の原因が解明された段階で必要な措置を講ずる。</p>
動物・植物・生態系・景観	<p>横須賀インターチェンジから塚山公園下のトンネル出口までの谷戸部では、地形改変を最も少なくなるようにし、仮設道路の設置の方法についても検討する。更に、法面には周辺の状況に配慮した緑化対策を行うこと。また、谷の低地はトウキョウサンショウウオやゲンジボタルなどが確実に生息できるように、生態系との関係を考慮した生息環境を保全する。</p> <p>第二臨海公園から塚山公園下のトンネル入口までの尾根部は、樹林が分断され、植生、景観に大きな影響を与えるため、道路の構造などについては自然環境への影響の最も少ない方法を検討し実施すること。</p> <p>第二臨海公園及びその隣接地にある貴重な樹林であるヤブコウジースダジイ群集にとって最も影響の少ない方法で施工すること。</p> <p>JR横須賀線駅前、住民とのかかわりも深いところであり、高架構造物の位置やデザインなどを検討し、圧迫感の緩和、安定感の確保に努める。</p>	<p>道路の構造や仮設道路の設置の方法を検討し、また法面小段への植栽等の法面緑化を図ることにより、自然環境に与える影響をできるだけ少なくする。トウキョウサンショウウオやゲンジボタルに対しては、水脈を確保し、工事による濁水の流入を防止するなど生息環境の保全を図る。</p> <p>植生への影響や景観に配慮した道路の構造等を検討し、実施することにより、自然環境への影響をできるだけ少なくする。</p> <p>第二臨海公園付近で、土地を改変する部分は、橋脚部分等の一部であるため、ヤブコウジースダジイ群集に与える影響は少ないと思われるが、更に施工方法を検討し影響を与えないよう配慮する。</p> <p>橋梁部分については、地元と十分調整を図り、周辺環境と調和したデザイン、橋脚の配置に配慮する。</p>